

春風秋霜

8月号

令和3年8月2日
島田市教育委員会だより
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

1 校長会と教育委員会の意見交換会から

7月15日(木)に行われた校長会との「教育を語る会」において教育委員の磯貝委員が、「認知症が進み自分の家族のことを忘れてしまったり、鏡に映った自分に挨拶をしたりする老人に、小学校のことを聞くと学校名だけでなく担任や校長名まで答える方がいた。」と話してくれました。最高齢100歳を含む28人中25人が学校名を覚えていたそうです。

磯貝委員は、小学校の記憶が認知症になっても残るのは、学校教育の素晴らしさだと話してくれました。認知症になった方の記憶に残る教育とはどのようなものなのか、明らかにすることは難しいですが、子供の頃の記憶はその人の人生の宝物かもしれません。教員は子供の生涯に大きく関わっているという自覚を持ち、感動ある授業を行うとともに、一人一人としっかりつながり、信頼関係を紡ぐことを大切しなくてはならないと思います。

2 6月議会を終えて

6月議会は、コロナ対策としての2件の補正予算や原喜恵子教育委員の再任などを無事可決し終わることができました。一般質問では、7人の議員からコロナ対応や特別支援教育、給食費の無償化、統合に関わる対応などについて質問されました。

コロナ関連では、マスク使用による熱中症を心配する意見もありましたが、各学校が工夫して対応していると答弁しています。これからも暑さは続くので熱中症対応は継続しなくてはなりません。熱中症は命に係わるものという意識を持ち、熱中症計の数値や子供たちの表情を把握し、適切な対応をお願いいたします。

特別支援教育においてこれまでの拠点校方式を拡大するのかと問われ、拠点校での状況や新たな学校の施設面や入級者数の状況を見て、設置可能ならば新設を検討したいと答えています。

給食の無償化については、就学支援などにより必要な家庭には支援を行っているので、無償化は考えていないと回答しています。また、統合関連では、計画的な交流を行うとともに、跡地利活用については学校施設跡地利活用検討委員会により検討を開始したことと、文部科学省の「みんなの廃校プロジェクト」に掲載したことを答えています。

3 オリンピックを振り返って

オリンピックは多くの感動を見る人に与えてくれました。卓球の男女混合ダブルスのドイツ戦は、9対2と圧倒的な不利を跳ね返し勝利を勝ち取りました。私は絶対に負けると思いましたが、水谷・伊藤ペアは諦めずに戦い逆転勝利をしました。決勝戦ではこれまで勝てなかった強敵中国を破り金メダルに輝いています。

自国開催ということもあり、毎日テレビの前で応援していますが、これまでのオリンピックに比べ、日本人選手に悲壮感が無く、のびのび競技している選手が多いように思いました。また、13歳で金メダルといった若手の活躍も目立ちます。今後の活躍にも期待したいと思います。

しかし、今回のオリンピックで忘れてはならないことは、人権問題です。開会式の楽曲

を担当した小山田圭吾氏は、過去のいじめ事件により退任に追い込まれました。このニュースを聞き、島二中の PTA 教育講演会で尾木直樹氏が「いじめは一生忘れられない」と話していたことを思い出しました。

いじめも時として被害者だけでなく、加害者の一生も大きく変えてしまうことを認識しなくてはなりません。女性差別や人種差別などにおいても、今回のオリンピックから競技前なら抗議の意思表示が認められ、片膝を着く行為をする選手も現れています。機会をとらえ、この問題を子供たちに考えさせていただきたいと思います。

4 日本ミツバチの分蜂

7月27日(火)に帰宅すると、妻が庭に虫が渦を巻いていると騒いでいました。言われた場所に行くと、日本ミツバチが分蜂し、木の根元に集まっていました。ドッジボール大の塊になった蜂の大群を見れば、虫嫌いでも驚くと思います。

珍しい蜂なので、早速杉材で巣箱を作り、中に蜂蜜を垂らし、蜂をかき取って巣箱に移しました。夕方なので女王蜂を見つけることはできなかったのですが、巣箱に定着するか不安でした。

翌朝、巣箱を見ると、蜂たちは元の木の根元に集まっていました。女王蜂を巣箱に移せなかったのでしょうか。30分ほどするとどこかに飛び立って行ってしまいました。巣箱に定着すれば何時か蜂蜜が取れると期待しましたが、はかない夢となってしまいました。分蜂は子供の頃に見た記憶がありますので、約60年ぶりという貴重な経験をしました。

肘かけ椅子

村田 一史 学校教育課長

「新たな視点」

赴任して、4ヶ月が経ちました。新しい職場に赴任すると、「ものがどこにあるのか分からない、先が見通せない」など、しばらく苦労はしますが、一方で、通常なら気にも留めないことに、新たな発見や気付きを感じることがあります。

この4ヶ月、学校教育課の内外を始め、様々な人と話をしたり仕事をしたりする中で、想像以上に、学校からは見えないところで、子供の教育には多くの人が携わり、様々な形で子供の成長を支えているということに気付きました。

そこでは、子供の健康・安全、興味・関心、資質・能力の高揚を願い、企画・運営を行っています。また、様々に出てくる問題や課題に対峙し、解決を図りながら取り組んでいます。時には、夜遅くまで、一人でコツコツと仕事に取り組む職員の方を目にすることもありました。

全ての人に共通していることは、職務や経歴、立場を問わず、「島田の子供のために、よりよい教育を」という願いを持ちながら、日々奮闘しているということです。多くの人が、見えないところで、子供の成長を願いながら、黙々と、また、協働的に仕事をする姿に、頭が下がる思いです。

さて、「夢育・地育」の下に、コミュニティースクールがスタートして2年目になりました。現在、島田市内の各地区で学校教育を越え、地域、自治体での「子供たちの成長を願った様々な取組が始まっています。それらは、創造的で、協同的な取組です。地域と学校、行政が目標を共有し、あらゆる方向から行動を起こしていくことが、島田の子供の可能性を引き出し、成長を保障していくことにつながると感じています。